# Arcserve Unified Data Protection 7.0 環境構築ガイド - コンソール + 復旧ポイント サーバ -(フル コンポーネント)

# インストール編

はじめに	1
1. インストール	2
1.1 インストール前の確認と準備 1.2 バージョンの確認	2
1.3 ライセンス キーの登録	14
2. 運用開始のための設定	17
2.1 環境設定ウィザード	17
3. 運用開始のための設定	23
3.1 インストールの種類	23
4. 製品情報と無償トレーニング情報	25
4.1 製品情報および FAQ はこちら 4.2 トレーニング情報	25 25

#### 改定履歴

2019年5月 Rev1.0 リリース 2019年7月 Rev1.1 リリース 2020年5月 Rev1.2 リリース



#### はじめに

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) は、非常に「簡単」かつ「手頃」なディスク ベースのシステム保護 ソリューションです。単体サーバで構成される小規模なコンピューティング環境にも、複数サーバで構成される大規模なコ ンピューティング環境のニーズにも必要とされるバックアップ・リカバリ機能を提供します。

導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めると専門知識や手間をかける 必要がほとんどないため、バックアップ運用管理者の手薄な拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができま す。

本ガイドでは、サーバ管理やバックアップ運用経験の少ない方でも、簡単に UDP の環境構築を行っていただける よう、ステップバイステップでインストールから運用開始までの手順を説明しています。

なお、本ガイドでは以下のような環境で、UDPのすべてのコンポーネントを1台のサーバに構築することを想定していま すが、マシン性能によってはコンソールと復旧ポイント サーバを別マシンに分けて導入することも検討してください。導入 に必要なメモリやディスクは動作要件で確認いただけます。

<動作要件> <u>https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pqWAC/arcserve-udp-compatibility-matrix?language=ja</u>



<参考> Arcserve UDP のコンポーネントについて:

- UDP エージェント: バックアップおよびリストアを実行します。
- UDP 復旧ポイント サーバ (Recovery Point Server: RPS) :
  - (1) バックアップ データ(復旧ポイント)を保管するデータストアを提供します。
  - (2) (UDP エージェントが同時にインストールされます)
- UDP 管理コンソール :

バックアップ対象やバックアップ スケジュールの管理、および操作画面を提供します。 統合管理を行う場合に導入します。

#### 1. インストール

本ガイドでは、Arcserve UDP エージェント、Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ、Arcserve UDP コンソール 計 3 コンポーネントをすべてインストールする手順をご説明します。

説明手順は、ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

インストールの必要なディスク要件は、環境により異なりますので下記動作要件をご参照下さい。

#### 動作要件の参照先 :

https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja

#### 1.1 インストール前の確認と準備

UDP コンソールは、 Microsoft SQL Server 2014 Express SP2 (デフォルトデータベース) を利用するため、Microsoft .NET Framework 4 以上が必要です。Windows Server 2008R2 に導入する場合、Microsoft .NET Framework 4 をインストールす るため、導入後に OS の再起動要求が入ります。UDP コンソール導入時の OS 再起動を回避するには、事前に

Microsoft .NET Framework 4 (以上) を導入し、リブート処理を行います。

※ Microsoft .NET Framework 4 は日本マイクロソフト社の Web ページから ダウンロードできます。(言語パックも併せて 導入してください)

Windows Server 2012 では Microsoft .Net Framework 4 が導入されています。また、Windows Server 2012 R2 以降の OS バージョンの場合には、Microsoft .Net Framework 4.5.1、もしくはより新しいバージョンがデフォルトで導入されているため、.Net Framework の導入はスキップされます。このため、再起動は発生しません。

(1) [インストールの開始]

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) をインストールするコンピュータに、Administrator または、 Administrators グループのユーザでログオンします。「Arcserve Unified Data Protection」 インストール メディア をセットし、[setup.exe] を実行します。セットアップ ウィザードが開始されます。 ※ダウンロードした Arcserve\_Unified\_Data\_Protection\_7.0\_with\_Update\_X.exe からもインストール可能です。

("X"は Update の番号です。)

(2) [セットアップ言語の選択]

[Japanese / 日本語] を確認し、[OK] をクリックします。

セットアップ	言語の選択		$\times$
12	言語を選択します。		
	Japanese / 日本語	$\sim$	
	OK キャンセル		



(3) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約に同意します] を選択し [次へ] をクリックします。



(4) [インストールタイプの選択]

[インストールするコンポーネントの選択] で、[Arcserve Unified Data Protection - フル] を選択し、[次へ] をクリックします。



※インストールするコンポーネントを個別指定したい場合は、「3.補足情報」を参考に [インストール タイプの選 択] メニューで [高度なインストール] を選択し、必要なコンポーネントを指定します。



(5) [デスティネーション フォルダの選択]

インストール先フォルダを確認し、[次へ]をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ					
arcserve	UNIFIED DATA PROTE	CTION			
<ul> <li>✓ 使用許諾契約</li> <li>✓ インストールの種類</li> <li>→ デスティネーション フォルダ</li> </ul>	デスティネーション フォルダのi C:¥Program Files¥Arcserve¥	<b>変択:</b> Unified Data Protection¥			参照( <u>O</u> )
環境設定 ファイアウォールの例外 メッセージ サマリ インストールの進捗状況 インストールレポート ジストールレポート 製品情報 リリースノート ナレッジ センター	必要な領域: C で使用可能な容量;	7.39 GB 47.44 GB			
パージョン 7.0 (ビルド 4455)			< 戻る( <u>B</u> )	次^( <u>N</u> ) >	キャンセル

(6) [環境設定]

使用するプロトコルを「HTTPS」または「HTTP」から選択します。また、ブラウザでリモート管理を行うための ポート番号を確認します。デフォルトで設定されるポート番号はエージェントが「8014」、コンソールが 「8015」です。ここで登録したポート番号を使用して UDP を操作します。(本ガイドでは「HTTPS」(デフォル ト)を選択しています)UDP で使用する Windows 管理者の名前 [ユーザ名] を確認し、[パスワード] を入力し、 [次へ] をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection セットフ	アップ	
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION	
<ul> <li>◆ 使用許甚契約</li> <li>◆ インストールの推測</li> <li>◆ デスティネーション フォルダ</li> <li>◆ 環境設定 フィイアウォールの例外 メウセージ サマリ</li> <li>インストールの連邦状況 インストールレポート</li> </ul>	専 構設定  プロトコル:  HTTPS  ・ 注:より安全な通信のためには、HTTPSの通信プロトコルが推  エージェントボート: 8014  コソソールボート: 8015  管理者権限のあるアカウントを指定する ユーザ名: パスワード: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	✓ 減されます。 
製品情報 リリース ノート	Arcserve UDP エージェントモニタの表示: ④ すべてのご ○ 現在のコ	1-9 -907
<u>ナレッジ センター</u> パージョン 7.0 (ビルド 4455)		< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル



(7) [データベースの設定]

UDP が使用するデータベースを設定します。標準では製品に添付された Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express がインストールされます。内容を確認し、[次へ]をクリックします。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ				
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION			
<ul> <li>◆ 使用許諾契約</li> <li>◆ インストールの種類</li> <li>◆ デスティネーションフォルダ</li> <li>◆ 環境設定</li> <li>◆ データペースの設定</li> </ul>	<b>データベースの設定</b> データベース: Microsoft SQL Server 2014 Express (含む) 〜 インストール フォルダ:			
ファイアウォールの例外 メッセージ サマリ	C#Program File#Hicrosoft SQL Server 参照 データフォルダ:			
インストールの進捗状況 インストール レポート	CMPYOgram HeasyNictosoft SQL Server 参照 原存のデータベースを上書きする			
製品情報 リリースフート ナレッジ センター				
パージョン 7.0 (ビルド 4455)	< 戻3( <u>B</u> ) 次へ( <u>N</u> ) > キャンセル			

(8) [ファイアウォールの例外]

Windows ファイアウォールの例外として登録します。内容を確認し、[次へ] をクリックします。

arcserve	UNIFIED DATA PROT	ECTION		
<ul> <li>使用許諾契約</li> <li>インストールの種類</li> <li>デスティネーションフォルダ</li> <li>環境時時空</li> </ul>	<b>ファイアウォールの例外</b> 以下のプログラムを Windows	ファイアウォールの例外として登録します:		
✓ ボールバーフの読定	サービス/プログラム	<i>R</i> 2		
	CASDataStoreSvc	C: ¥Program Files ¥Arcserve ¥Unified Data Protection ¥Engine ¥BIN ¥Data StoreInst Service.exe		
ファイ アワオールの1995	AFD2DMonitor.exe	C:#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#Engine#BIN#AFD2DMonitor.exe		
メッセージ	RPSReplication.exe	C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine¥BIN¥RPSReplication.exe		
サマリ	HATransServer.exe	ATransServer.exe C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine¥BIN¥HATransServer.exe		
インストールの進捗状況	HATransCloudServer.exe C:#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#Engine#BIN#HATransCloudServer.exe			
インストール レポート	GDDServer.exe	DServer.exe C:#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#Engine#BIN#GDDServer.exe		
	DSFileServer.exe C#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#Engine#BIN#DSFileServer.exe			
	SetupWrapper.exe	C:#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#Management#Setup#SetupWrapper.exe		
	ARCUpdate.exe	C:#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#Update Manager#ARCUpdate.exe		
	tomcat9.exe	C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Common¥TOMCAT¥bin¥tomcat9.exe		
	httpd.exe	C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Common¥Apache¥bin¥httpd.exe		
	java.exe	C:¥Program Files¥Arcserve¥Unfiled Data Protection¥Management¥ldentityServer¥jre¥bin¥java		
製品情報				
<u>J-2.7-F</u>				
-1				



(9) [メッセージ]

セットアップの検証が完了し、インストールの準備が整いました。[次へ]をクリックして進めます。

Arcserve Unified Data Protection セッ	アップ
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION
<ul> <li>◆ 使用料電契約</li> <li>◆ インストールの種類</li> <li>◆ デスティネーションフォルダ</li> <li>&gt;▼ 環境設定</li> <li>◆ データベースの設定</li> <li>&gt; アッイアウォールの例外</li> <li>&gt; メワセージ</li> <li>サマリ</li> <li>↑ ンストールの推移状況</li> <li>インストールルボート</li> </ul>	<b>メッセージ</b> セットアップによる検証が完了し、選択されたエンボーネントをインストールする準備が整いました。
リリースノート ナレッジ センター	
パージョン 7.0 (ビルド 4455)	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

(10) [サマリ]

サマリ内の設定項目が正しければ [インストール] をクリックし、インストールを開始します。もし相違があれば [戻る] をクリックして前に戻り、再設定します。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ			
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION		
<ul> <li>◆ 使用許諾契約</li> <li>◆ インストールの種類</li> <li>◆ デスティネーション フォルダ</li> <li>◆ 環境設定</li> </ul>	サマリ [インストール]をクリックして以下の設定でインストールを開始するか、 □ Arcserve Unified Data Protection	(戻 5) をクリックして設定を変更します。	
◆ テーダベーズの設定	インストール パス	C#Program Files#Arcserve#Unified Data Protection#	
🛷 ファイアウォールの例外	通信プロトコル	HTTPS	
🖌 メッヤージ	- Arcserve UDP エージェント	0011	
. #	ホート番号	8014 (†(.)	
+ 989	Arcserve UDP コンソール	1001	
インストールの進捗状況	ポート番号	8015	
製品情報 <u>リリースフート</u> ナレッジ センター			
パージョン 7.0 (ビルド 4455)		< 戻る(B) インストール(I) キャンセル	



(11) [インストールレポート]

「インストールが完了しました」のメッセージを確認し、[完了] をクリックします。デフォルトは、インターネット接続環境であれば、製品の更新を確認し最新の状態にすることができます。またチェックを外し、更新を確認せずに [完了] させることもできます。オフライン環境で更新を手動で適用する場合、<u>ここ</u>よりダウンロードしてください。

※ 最新の UDP Update を適用する場合、OS 構成やアップデート状況により、再起動を求められる場合があります。再起動が必要な場合に表示されるメッセージはこちらをご確認ください。



#### (12) [更新の確認]

[更新の確認] 画面からダウンロード経路を選択して、[更新] をクリックしてダウンロードが開始されます。 ※この画面は、(プロキシを経由しない)直接ダウンロードをした場合になります。

」用可能なすべての更新がダウン	/ロードおよびインストールされます。この更弟	FFをダウンロードするソースを選ぎ	ぺし、 [更新] をクリックします。	
) Arcserve サーバから更新をダ	א-סעל			
□ プロキシ サーバを使用				
プロキシ サーバ:				
ポート:				
プロキシ サーバには	認証が必要			
ユーザ名:				
パスワード:				
)ステージングサーバから更新を	ダウンロード			



(13) [更新の確認]

[完了]を押して終了します。

	Shinke bala Holecash EXTYYY
a	rcserve" Unified data protection
	更新の確認
0	Arreserve Unified Data Protection に対して利用可能なすバイの画新が正常にインストールはれました「完了」をグリックして終了します。
	Mediate onlinear para Lionerani Evideu all'alla per consenta mane i XVI - Mediatoria De 11 E XXXX0645 1 083 a
	完了(F) キャンセル

※以下のように再起動を求められた場合は、[はい]をクリックしシステムを再起動してください。

更新の確認	
<ul> <li>Arcserve Unified Data</li> </ul>	a Protection に対して利用可能なすべての更新が正常にインストールされました。[完了] をクリックして終了します。
	Arcserve United Data Protection × インストールを完了するには、システムの再起動が必要です。今すぐシステムを再起 動してもよろしいですか?
	はい(Y) いいえ(N)



#### 1.2 バージョンの確認

(1) [Arcserve UDP コンソールの起動]

インストール完了後、管理者権限のあるユーザ(ここでは Administrator)でログインし、スタート メニューから、[Arcserve UDP コンソール] を起動します。



既定のブラウザが起動しますが、デフォルトの証明書が証明機関によって識別されないため、警告が表示されま



す。[詳細情報] → [Web ページに移動 (非推奨)] を選択し続行します。

UDP のログイン画面が表示されます。イプロトコルを HTTPS にすると、Web ブラウザで警告が表示されます。 警告は、証明書が証明機関によって識別されていないことを示していますが、警告を無視して続行してもネットワ ークで転送されるデータは暗号化されます。

警告を表示されないようにする場合は、以下のステップで証明書の追加が必要です。

(ア) [証明書のインストール]

アドレス バーの証明書のエラーをクリックし、続いて証明書の表示をクリックして証明書を表示します。



証明書を表示し、[証明書のインストール]をクリックし証明書のインポート ウィザードを起動します。

[現在のユーザー]を選択し、[次へ]をクリックします。

<ul> <li>         証明書         全般 詳細 証明のパス         </li> </ul>	×	← ಶ 証明書のインポート ウィザード
	-	証明書のインポート ウィザードの開始
		このウィザードでは、証明書、証明書信頼リスト、および証明書夫効リストをディスクから証明書ストアにコピー します。
		証明機関によって発行された証明書は、ユーザー ID を確認し、データを保護したり、またはセキュリティで保護 されたネットワーク接続を提供するための情報を含んでいます。証明書ストアは、証明書が保管されるシステ ム上の領域です。
<b>発行先:</b> w2019		保存場所
発行者: w2019		<ul> <li>● 現在のユーザー(C)</li> <li>○ ローカル コンピューター(L)</li> </ul>
有効期間 2019/04/12 から 2069/03/30		続行するには、[次へ] をクリックしてください。
証明書のインストール(I) 発行者のステートメント(S)		
OK		次へ(N) キャンセル



[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し参照をクリックします。

証明書ストアの選択画面で、[信頼されたルート証明機関]を選択し [OK] をクリックします。



証明書ストアに、信頼されたルート証明機関が追加されたのを確認し、[次へ]をクリックします。

証明書がインポートされたことを確認し、完了を押します。

←   夢 証明者のインボートゥィザード	× × × × × × × × × × × × × × × × × × ×
証明書ストァ 証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。	証明書のインポート ウィザードの完了
Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。	[兜了]をクリックすると、証明書がインボートされます。
<ul> <li>○ 証明書の理境に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)</li> <li>④ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)</li> <li>● 証明書をすべて次のストアに配置する(P)</li> <li>■ 証書をすべて次のストアに配置する(P)</li> <li>■ 証書をませて次のストアに配置する(P)</li> <li>■ 証書をませて次のストアにのでのないののでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでので</li></ul>	次の設定が指定されました <u> デーが強勢した証明者ストア</u> 虚積されたルート証明機関 内容 証明者
次へ(N) キャンセル	売了(F) キャンセル

証明書をインストールする旨、セキュリティ警告画面が出てきますが、[はい]をクリックしインポートしま



ブラウザを再起動し、UDP コンソールのログイン画面を開き、証明書エラーが解消されていることを確認します。



Rev:1.2

(2) [ログイン]

インストール時に指定したアカウントでログインします。ここでは、このまま「Administrator」アカウントでログ インします。[パスワード] 入力し、[ログイン] をクリックします。

※ UDP コンソールを導入したサーバ上で、UDP コンソールのログイン画面を表示した場合は、「現在の Windows 認証情報(IWA)を使用してログインします」をクリックすると、ログイン操作を行わずに UDP コンソールを表示で きます。



(3) [バージョン情報]の確認

	* (	<b>≧ ඊ</b> 検索	× □ - © \$\$ ☆ \$\$ -\$ -\$
arcserve" UNIFIED DATA PROTECTION	🍄 更新サーバを使用できません。 🗆	<ul> <li>● メッセージ (1) ・</li> </ul>	administrator • ۸٫۱٫۶۶ •
ダッシュボード <u>リソース</u> ジョブ レポート ログ 設定	ハイ アベイラビリティ		オンライン サポート Arcserve UDP コミュニティ(英語のみ) ビデオ (英語のみ)
環境設定ウィザード			アクティベーションとライセンス 更新の確認
Arcserve UDP 環境設定ウィザードへようこそ			バージョン情報

ログイン後、画面右上の [ヘルプ] から、[バージョン情報] をクリックします。



(4) [バージョン情報]

バージョン、Build 番号、および Update の確認ができます。

Arcserve Unified Data Protection のバージョン情報	$\times$
arcserve	
Arcserve Unified Data Protection パージョン: 7.0.4455 Update 2 ビルド 684 Copyright で 2014-2020, Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries.All rights reserved.	
使用許諾契約 警告・ホコンピュータ プログラムは、著作権法および著作権に関する国際条約によって保護さ れています。ホプログラムの全部または一部を無断で複製したり、無断で複製物を頒布する と、民事記あよび刑事罰の対象となり、法律で許可される最大の範囲において起訴されま す。	
オンライン サポート リリース ノート	
ОК	

#### 1.3 ライセンス キーの登録

(1) [ライセンス登録画面の起動まで]

インストール完了後、管理者権限のあるユーザ(ここでは Administrator)でログインし、スタートメニューから、[Arcserve UDP コンソール]を起動します。





UDP のログイン画面が表示されます。インストール時の [環境設定] で設定したユーザ名(上段)、パスワード(下段)を入力し、[ログイン]をクリックします。

※ UDP コンソールを導入したサーバ上で、UDP コンソールのログイン画面を表示した場合は、「現在の Windows 認証情報(IWA)を使用してログインします」をクリックすると、ログイン操作を行わずに UDP コンソー ルを表示できます。



ログイン後、画面右上の [ヘルプ] から、[アクティベーションとライセンス] をクリックします。

Arcserve Unified Data Prote ×	♂│ 検索	- ロ × タテ 命☆競 <sup>29</sup>
CICSERVE® UNIFIED DATA PROTECTION 🕫 Entry-Asterna 1	<ul> <li>シッセージ (1) ・</li> </ul>	<b>strator ・ ヘルプ・</b>
ダッシュボード <b>リソース</b> ジョブ レポート ログ 設定   ハイ アベイラビリティ		オンライン サポート Arcserve UDP コミュニティ(英語のみ) ビデオ(英語のみ)
環境設定ウィザード		アクティベーションとライセンス
Arcsenve UDP 環境設定ウィザードへよえそ		更新の19682 バージョン情報



(2) [ライセンス管理]

[ライセンス管理]を選択して下欄に25桁のライセンスキーを入力し、[追加]をクリックします。

クティベーションとライセンス					ĺ
製品アクティベーション <b>ライ</b>	センス管理 トライアルの延	長			
ircserve UDP のライセンスを管理する(こは、 "を行う場合は、Arcserve ライセンス ポータ)	ライセンス管理を使用します。このアクテ にログインしてください。	ィベーションへのライ	センスオーダーの追加、	ライセンス ブールの数量の更新、その他のア	カウント全般の管理な
Arcserve ポータルを開く					
Arcserve UDP ライセンス			~	ライセンスされたノード	
5-112223名	승計	空き容量	ライセンスなし	/- 18	ノードタイプ
				14 4   K-9 🗔   🕨	N   @
ABODE-EGHLI-KI MNO-PORST-I I MIO	M 🗙 追加		更新	<b>金</b> 25行	割的出去
				arux	849 <u>9</u> C
					問いる ヘルプ

(3) 登録した[コンポーネント名](製品名)を確認し、[閉じる]をクリックし画面を閉じます。以上でインストール、およびライセンスの登録は完了です。

アクティベーションとライセンス					•
製品アクティベーション ライセンス管理 ト		E.Ę			
Arcserve UDP のライセンスを管理するには、ライセンス管理を使用	します。このアクテ	ィベーションへのライ	(センスオーダーの追加、	ライセンス ブールの数量の更新、その他の	)アカウント全般の管理な
どを行う場合は、Arcserve ライセンス ボータルにログインしてください Arcserve ボータ川を開く	6				
Arcserve LIDP 5/12/2			v	ライナンスされたノード	~
540.28	승방	空头突骨	5-12-2221.	/- KX	ノードカイブ
Arcserve UDP 7.0 Premium Edition - Managed Capacity	無制限	無制限	6632961 TB	, 15	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
				N N K-9 1 /1	🕨 🕨 🗟 データなし
	追加		更新	解放	書的当て
					問!!ろ AUT
					1000 7000



#### Rev:1.2

#### 2. 運用開始のための設定

UDP インストール後、管理コンソールを起動すると、[環境設定ウィザード] が自動的に起動します。 このガイドでは、[環境設定ウィザード] を利用してデータストアの作成と Windows サーバのバックアップ プランの作成 方法を説明します。

#### 2.1 環境設定ウィザード

(1) [Arcserve UDP 環境設定ウィザードへようこそ]
 環境設定ウィザードを利用して、バックアップ プランを作成します。

[次へ] をクリックします。

arcs	erve <sup>®</sup> l	INIFIED DATA PROTECTION	♥ 更新サーバを使用できません。	<ul> <li>Ø メッセージ(1) →</li> </ul>	administrator *	へルづ
ダッシュボード	リソース ジョン	ブ レポート ログ 設定	ハイ アベイラビリティ			
環境	竟設定ウィザード					
Arcs	ærve UDP 環境設	定ケィザードへようこそ				
		<b>7ラン</b> 呆護プランは、データをパックアップし、必要に のに役立ちます。これには、レグリケーション のウィザードでは、保護対象ノードからデー	ご応じて復旧ポイント(ご追加の保護タスクを実行 、仮想スタンバイ、テーラへの復日ポイントのユ 々をバックアップするシンプルな保護プランを作成	することにより、データを保護す 2ーなどが含まれます。 する手順を示します。	る方法を管理す	
		1. 保護プランで提供する保護の種 エージェントベース パックアップを介 アップを介して仮想マシンを保護で	<b>美乾指定します。</b> して Whdows または Linux マシンを保護できま きます。	き。またはホストベース エージェ	ントレス バック	
		2. 保護するノードを追加します。 保護の種類に応じて、ノードを検	出および追加する方法を選択できます。			
		3. <b>パッフアップのデスティネーションを</b> ネットワーり共有、保護されている。	を <b>選択します。</b> ノード上のボリューム、復旧ポイント サーバ上の3	データストアを選択できます。		
	$\bigcirc$	<ol> <li>パッグアップのスケジュールを設定 ノード上のエージェント ソフトウェアの プのスケジュールを設定できます。</li> </ol>	<b>ミします。</b> のインストール/アップグレード、最初のパックアップ	プ (フル バックアップ)、後続の日)	欠増分パックアッ	
	からこのページを表示し	tatu				
	ルプ			次へ	キャンセル	



Rev:1.2

(2) [ステップ 1/5: 保護タイプの選択]

[プラン名] を入力し、[保護するノードの種類] を選択し、[次へ] をクリックします。 本ガイドでは、[バックアップ:エージェント ベース Windows] を選択します。

フニップィノトノロ港トノゴの冷却	
ステッノーノコ:1本語タイノの進折	5
プランの名前を指定し、保護するノードの	種類を指定してください。
プラン名	Windows物理マシンのバックアップ
保護するノードの種類	Nックアップ: エージェントベース Windows
	パックアップ、エージェントペース Windows パックアップ・パベドベース エージェンドレス パックアップ・ブーンドペース しかぶ

(3) [ステップ 2/5: 保護するノードの追加]

[ホスト名/IP アドレス] にバックアップ対象のノード名を入力し、[ユーザ名] と [パスワード] を入力し、[リストに 追加] をクリックし、右側の [ノード名] リストに保護対象が追加されることを確認し、[次へ] をクリックします。

Arcserve Unified Data Prote 🗙 📑		
arcserve MHD	DATA PROTECTION 🔹 更新サール後使用で	きません。」 <b>の</b> メッセージ(1) * administrator *
ダッシュボード <mark>リソース</mark> ジョブ レポ	ート ログ 設定   ハイアベイラビリティ	
環境設定ウィザード > プラン : Wind	ows物理サーバのバックアップ	
ステップ2/5:保護するノードの追加 ノードを検出するために使用する方法を選択し、必 ホスト名/P アドレスによる Windows ノードの追加 ホスト名/P アドレス ユーザ名	要な情報を入力して、「リストに追加」をクリックします。 v W2019-test1 administrator	
パスワード	•••••	
6X899	<u> パストに38</u> 加	前位度5 次4 多約4211
Copyright © 2014–2019, Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsi	diaries.All rights reserved.	UTC+03:00 (日本標準時)

※UDP コンソールへのバックアップ対象の追加は、[リソース] タブの左ペインの [ノード] から [すべてのノード] を選択した画面でも実行できます。

(4) [ステップ 3/5: デスティネーションの選択]

バックアップ先を指定します。バックアップ先に RPS を指定する場合は、データストアを作成する必要があります。

[データストア] - [作成] をクリックします。データストア作成後、[次へ] をクリックします。

ジッシュボード <b>リソース</b> ミ	ジョブ レポート ログ 設定	ハイ アペイラビリティ	
 環境設定ウィザード > プ	ラン : Windows物理サーバのバック、	アップ	
ステップ 3 / 5: デスティネー	ションの選択		
デスティネーションの種類を選択し、	デスティネーションを選択または作成します。		
デスティネーション	RPS 上のデータストア	~	
復旧ポイント サーバ	w2019-01	▼ 追加	
ቻータ ストア	[作成] をクリックしてデータ ストアを作成	✓ 作成(R)	
🗌 セッション パスワードの有効	ſŁ		

※本ガイドの [1.1インストール前の確認と準備] に従っている場合は RPS を含むすべてのコンポーネントがイン ストールされていますので、デスティネーションの [復旧ポイント サーバ] にローカル サーバが表示されていま す。他の復旧ポイント サーバを指定する場合は、[追加] をクリックし登録を行います。 なお、環境設定ウィザードの完了後に復旧ポイント サーバを追加する場合は、 [リソース] タブの左ペインの [デス

ティネーション] から [復旧ポイント サーバ] を選択して、[復旧ポイント サーバの追加] から登録してください。

(5) [ステップ 3/5: デスティネーションの選択] データストアの作成

[データストア名] を入力し、 [データストアフォルダ] を指定します。
デフォルトでは [データのデデュプリケート] のチェックがされており、バックアップ データの重複排除機能が有効になっています。(本ガイドではデフォルト設定のまま作成を行います)
重複排除を有効化したデータストアを作成する場合、[データストアフォルダ] と以下のフォルダを指定して
[次へ] をクリックします。
・データ デスティネーション

- ・インデックス デスティネーション
- ・ハッシュ デスティネーション



cserve Unified Data Prote 🗙 📑			
arcserve	IFIED DATA PROTECTION 🧇 更新サーバを使用できません。 I	Ø メッセージ(1) ・	administrator *
ダッシュボード <b>リソース</b> ジョブ	レボート ログ 設定   ハイ アベイラビリティ		
環境設定ウイザード			
ステップ 3 / 5: デスティネーション(	の選択   データ ストアの作成		
一般ルールを参照するか、デデュプリケーシ	ィョンのストレージ容量要件を次で推定できます: <u>要件プランニングのワイック リファレンス。</u>		
🕕 デデュプリケーション、圧縮、暗号化を	有幼化または無幼化する設定は、データストアの作成後は変更できません。		^
復旧ポイントサーバ	w2019-01		
データ ストア名	DS01		
データ ストア フォルダ	E:¥datastore01¥DS01	参照	
同時アクティブ ノードの制限	4		
☑ デデュプリケーションの有効化			
デデュプリケーション ブロック サイズ	16 KB		
ハッシュ メモルの割り当て	8973 MB (最大: 16383 MB、最小: 1024 MB)		$\sim$
環境設定ウィザード			
ステップ 3 / 5: デスティネーション(	の選択 データストアの作成		
u S Jetteskiejie			^
	8973 MB (取天:16383 MB, 取小:1024 MB)		
ニリハッンユ アスティネーションは と データ デスティネーション	らい (Solid State Unive) 上にのる	泰昭	
		de 877	
インナック人 ナ人ナイイーション	E:¥datastoreU1¥Index	-200 D.M.	
ハッシュ デスティネーション	E¥datastore01¥Hush	参照	
ハッシュ デスティネーション ☑ 圧縮を有効にする	EWdatastore01WHush	参照	
ハッシュ デスティネーション ☑ 圧縮を有効にする 圧縮タイプ	E¥datastore01¥Hush ●標準	参照	
ハッシュ デスティネーション ✓ 圧縮を有効にする 圧縮タイグ  □ 暗号化の有効化	E¥datastore01¥Hush ● 標準	参照	v
ハッシュ デスティネーション ☑ 圧縮を有効にする 圧縮タイプ □ 暗号化の有効化 □ デスティネーションの容量が上限は	E¥datastore01¥Hush ● 標準	参照	~

※注意:

デフォルトの設定の[デデュプリケーションの有効化] では、重複排除時の比較処理でデータ量に応じメモリが消費 されます。環境にて十分なメモリがあることをご確認ください。

デフォルトの [デデュプリケーション ブロック サイズ] は、16KB です。デデュプリケーション ブロック サイズ は、4KB、8KB、16KB、32KB、64KB から選択できます。

必要となるメモリおよびストレージ容量については画面下の [要件プランニングのクイック リファレンス] にて推定 することができますので参考にしてください

#### <参考情報>

Arcserve UDP 7.0 サーバ構成とスペック見積もり方法

バックアップ対象データ量や運用要件に応じ、「コンソール」と「復旧ポイント サーバ」をインストールするサー バに必要なメモリ、ストレージ容量を計算します。



- (6) [ステップ 4/5: バックアップ スケジュールの設定]
   バックアップスケジュールを確認し、[次へ] をクリックします。
   デフォルトの設定では以下の設定が行われています。必要に応じてスケジュール変更してください。
   ・UDP エージェントのインストール:インストールした日の 21 時
  - ・最初のバックアップ (フル バックアップ): インストールした日の 22 時
  - ・日次バックアップ(増分) : 22時

環境設定ウィザード > プラン:	Windows物理サーバのバック	フアップ	
<del>ステップ 4 / 5: バックアップ ス</del> ケジ:	ュールの設定		
Arcserve UDP エージェント インストール	最初のパックアップ、後続の日次パックア	プのスケジュールを設定します。	
UDP エージェント のインストール	2019/04/22 💼 21	- : 00 -	
最初のバックアップ (フル バックアップ)	2019/04/22 💼 22	▼ : 00 ▼	
日次パックアップ (増分)	22 🖛 : 00 🖛		

※バックアップ スケジュールの設定を変更する場合、環境設定ウィザードの完了後、[リソース] タブの左ペインの [プラン] から作成したプラン名を選択し、右クリックのメニューから[プランの変更] を選択して [スケジュール] の設定を変更してください。

※注意:

バックアップ対象ノードにコンポーネントがインストールされていない場合、[UDP エージェントのインストール] のスケジュールに従って自動でリモートインストールを行います。

リモート インストールの際、約 900MB のインストール モジュールが対象ノードに転送されます。リモート インストールの転送量を制限する場合、事前に手動にてインストールを実行してください。



(7) [ステップ 5/5: 確認]

プランの詳細を確認し、[次へ]をクリックします。

シシュボード リソース	ジョブ レポート ログ 設定	ハイ アベイラビリティ			
環境設定ウィザード					
ステップ 5 / 5: 確認					
プランの詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作り	成します。			
プランの詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作 削除	成します。			
プランの詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作。 削時 保護対象ノード	成します。 デスティネーションの選択	パックアップ スケジ	່າວາມ	
プランの#詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作 削除 2017 (3000) (3000	成します。 <b>デスティネーションの選択</b> w2019-01>DS01	<b>バッシアップ スケジ</b> 最初のバックアッ	<b>ュール</b> ブ: 22:00; 日)次パックアップ: 2:	2:00
プランの詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作 削時	成します。 <b>デスティネーシュンの選択</b> w2019-01>DS01	<b>バゥን アップ スケジ</b> 最初のバックアッ	<b>ュール</b> ブ: 22:00: 日次パックアップ: 2:	2:00
プランの詳細を確認します。プラン ③ プランの作成 「 フラン名 Windows物理サーバのバックア	を編集するか、必要に応じて別のプランを作 削除 (別課分・) (別課分・) (別:1000000000000000000000000000000000000	成します。 <b>デスティネーションの選択</b> w2019-01>DS01	<b>バゥシアッフ スケジ</b> 最初のバックアッ	<b>コール</b> ブ: 22.00. 日次パックアップ: 2:	2:00
プランの詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作。 削除 2 <u>ップ</u> 1.エージェントベース	成します。 <b>デスティネーションの選択</b> w2019-01>DS01	<b>バゥንアゥブ スケジ</b> 最初のバックアッ	<b>コール</b> ブ: 22:00. 日:たバックアップ: 2:	2:00
プランの詳細を確認します。プラン	を編集するか、必要に応じて別のプランを作。 削序:	成します。 <b>デスティネーションの選択</b> w2019-01>DS01	<b>バゥን アップ スケジ</b> 最初のバックアッ	<b>ユール</b> ブ: 22:00, 日次バックアップ: 2:	2:00

#### 環境設定ウィザードにて [完了] をクリックします。

serve Unified Data Prote X			
arcserve <sup>®</sup> UNIFIED DATA PROTECTION	🍄 更新サーバを使用できません。 🛙	🗿 メッセージ (1) 🔹	administrator
ダッシュボード <b>リソース</b> ジョブ レポート ログ 設定   	ハイ アベイラビリティ		
環境設定ウィザード			
次の手順			
プランの環境設定が完了し、Arcserve Unified Data Protectionを使用する準備	ができました。Arcserve Unified Data Protect	ion では、次のことが実行でき	ます。
「株舗するノードを追加します。 「仮想スタンパイ、ファイル コピー、レプリケーション、その他多くの機能を使用	引してプランをカスタマイズします。		
♀ 復旧ポイント サーバおよびデータ ストアを含めることより、デスティネーション	を追加します。		
ウィザードを終了するには、[完了]をクリックします。			
へルプ	前に戻っ	る 完了	1
			キャンセル

作成済みのプランの設定 (バックアップ対象、バックアップ先、スケジュールなど) を変更する場合、 左ペインの [プラン] - [すべてのプラン] から対象のプランを選択し、右クリックのメニューから [プランの変更] をクリックして、変更することができます。



#### 3. 運用開始のための設定

#### 3.1 インストールの種類

[高度なインストール] では、以下の3 つのコンポーネントから選択してインストールができます。

- ・Arcserve UDP エージェント
- Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ
   (復旧ポイントサーバを選択すると、自動的にエージェントも選択されインストールされます)
   Arcserve UDP コンソール

#### [インストールの種類]

インストールするコンポーネントを個別に指定する場合、[インストール タイプの選択] で [高度なインストール] を選択します。

Arcserve Unified Data Protection セット	<i>พ</i> พว <i>ี</i>
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION
◆ 使用許諾契約 ◆ インストールの種類 デスティネーション フォルダ 環境設定 ファイアウォールの例外 メッセージ サマリ インストールの準続状況	<b>インストール タイプの変訳:</b> 標準インストール インストールするコンポーネント 高度なインストール Arcserve Unified Data Protection - エージェント (Arcserve UDP エージェント のみが含まれます。)
インストール レポート	Arcserve Unified Data Protection - フル (Arcserve UDP コンソール、御日ボイントサーバ、および エージェント が含まれます。)
製品情報 <u>リリースノート</u> ナレッジ センター	☑ Arcserve UDP エージェント 変更トラッキングドライバをインストールする[] このドライバは、このシステムの増分パックアップを実行する場合に必要です。ただし、このシステムが仮想スタンバイモニタまたはホスト ベース VM パックアップ プロキシとしてのみ使用される場合は必要ありません。
バージョン 7.0 (ビルド 4455)	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[高度なインストール]では、以下の3つのコンポーネントから選択してインストールができます。

- ・Arcserve UDP エージェント
- ・Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ

(復旧ポイントサーバを選択すると、自動的にエージェントも選択されインストールされます)

・Arcserve UDP コンソール



■ コンソールのインストール

[Arcserve UDP コンソール] のみ選択します。

Arcserve Unified Data Protection セット	アップ	
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION	
<ul> <li>✓ 使用許諾契約</li> <li>インストールの種類 デスティネーションフォルダ環境設定</li> <li>データベースの設定</li> <li>ファイアウォールの例外 メッセージ</li> <li>サマリ</li> <li>インストールの注掛状況</li> <li>インストールレポート</li> </ul>	<b>1</b> シストール タイプの選択:	ステータス インストールされていません インストールされていません インストールされていません インストールされていません
製品情報 リリースノート ナレッジ センター	<sup>14</sup> 時度で一方を目定してものスタークスに同きョンパードで上級しよう。AFCSEVE+ パーパイザによって管理される仮想マシンのディスカバリ、ブランの作成とノード/ を行うことができます。	JDF J ノールを使用して、アーの道がに利用、パイ いの割り当て、およびパックアップ ジョブ結果のレポート
パージョン 7.0 (ビルド 4455)	〈原	[3( <u>B)</u> 次へ( <u>N</u> ) > キャンセル

■ 復旧ポイント サーバのインストール

復旧ポイント サーバのみを構築する場合、[Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ] を選択します。 復旧ポイント サーバ インストール時には自動的に [Arcserve UDP エージェント] もインストールします。

Arcserve Unified Data Protection セット	לעי <b>ד</b>				
arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION				
<ul> <li>✓ 使用計結契約</li> <li>         インストールの種類 デスティネーション フォルダ 環境設定     </li> </ul>	<b>インストール タイプの選択:</b> 高度なインストール マ インストールするコンポーネントの選択:				
ファイアウォールの例外					
メッセージ	□ Accesses UDD 1-912/5 □ Accesses UDD 復旧ポイントサーバ インストールされていません				
サマリ インフトニルの進捗1世況	Arcserve UDP コンソール インストールされていません				
インストール レポート					
	Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ ^				
	注:このサーバを使用するには、Arcserve UDP コンソールを使用して一元管理する必要があります。 革新的な復日ボイント サーバ テクノロジにより、既存の Arcserve D2D テクノロジに「インテリジェント ターゲット」機能が追加さ れ、Arcserve Unified Data Protection と呼ばれる新しいリリューションが誕生しました。 この新しいインテリジェント ターゲット機能では、サイト間しプリケーションが誕生しました。 この新しいインテリジェント ターゲット機能では、サイト問しプリケーションを構造やできます。この場談をは用して				
	☑ Arcserve UDP エージェント 変更トラッキング ドライバをインストールする①				
製品情報 リリースノート ナレッジセンター	このドライバは、このシステムの増分バックアップを実行する場合に必要です。ただし、このシステムが仮想スタンバイ モニタまたはホスト ベース VM バックアップ プロキシとしてのみ 使用される場合は必要ありません。				
バージョン 7.0 (ビルド 4455)	< 戻る( <u>B</u> ) 次へ( <u>N</u> ) > キャンセル				



#### 4. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカタログや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

#### 4.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

https://www.arcserve.com/jp/

Arcserve Unified Data Protection 7.0 動作要件:
 https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja

・Arcserve Unified Data Protection 7.0 製品ドキュメント: https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Documentation?language=ja

・Arcserve UDP のサポート FAQ: https://support.arcserve.com/s/article/205002865?language=ja

Arcserve Unified Data Protection 7.0 注意/制限事項:
 https://support.arcserve.com/s/article/2019042201?language=ja

・Arcserve Unified Data Protection 7.0 ダウンロード情報 https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Solutions-Patches?language=ja

#### 4.2 トレーニング情報

無償トレーニング

半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなた様でも ご参加いただけますので、この機会にご活用ください。 (注:競業他社の方はお断りしております。)

https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/

